

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ふれあいふらの	評価実施年月日	平成19年5月16日
評価実施構成員氏名	・佐々木 まゆみ ・水間 温子 ・大東 健留 ・酒井 奈緒 ・木村 英美 ・吉田 亜紀人 ・福永 邦江 ・小松 陽子		
記録者氏名	佐々木 まゆみ	記録年月日	平成19年5月16日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホーム理念、ケア理念は、あるものの、地域に密着はしておらず、今後、検討必要。	○	今後運営推進会議を定期的開催しグループホームの理解と地域密着のサービスを実施していきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルーム、ホールの目につく所に掲示しており、いつでも確認できる状態になっているが、実践にはまだまだいたっていない部分がある。	○	全職員が理念をもっと理解し、実施できる様な環境作りを行なっていく。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	御家族様には、入居前の説明といつでも確認して頂ける様、重要事項説明と契約書を保管して頂いている。又ホーム入口に掲示している。しかし地域の方への理解への取り組みが今のところない。	○	地域の人への理解をえられる様、積極的に町内会への行事参加を行っていく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣りの方とのあいさつは勿論、除雪の際や畑作業の際に話をしたりしているが、ホームの中での交流はほとんどない。	○	気軽に立ち寄って頂ける、ホーム作りを心掛けていく。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会清掃や、総会などに積極的に参加している。	○	今後全職員が参加できる機会を作っていく。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者の方は、多数いるがなかなか貢献することができていない。	○	職員間での話し合いを行い、職員のできる事等で貢献していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価の意義はなんとなくは理解はしているが、職員全体の意識は低い。具体的には改善項目には、取り組むが継続ができていない。</p>	<p>年に1回実施しているものと思っている職員が多い為、正確な理解と必要性をもっと話し合っていきたい。又、継続ができる様職員一人一人の意識を高めていく。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>現在、運営推進会議準備中。しかし、町内会の方への説明会を実施したが、必要性をあまり理解して頂けない感じがある。</p>	<p>○ 市役所の介護保険課の方等の協力をえて、1日でも早く、理解して頂き開催できる様努めていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>富良野市の地域ケア講座や、病院の主催の研修会に積極的に参加している。他施設の方とも情報交換を行い、向上に努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、学ぶ機会はない。</p>	<p>今後、研修などに参加し、学んでいきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修会で勉強し、その内容、資料などを回覧しスタッフ全員が学べる様にしている。又、個々に自分自身のケアのあり方を振り返れる様、話し合いの場をもうけている。</p>	<p>グループホームでの虐待が多く報道されている為、全職員が注意し防止に努めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際、御家族様、施設長、管理者にて必ず行い一つ一つ説明し、理解、納得した上で契約している。解約の際も同様。</p>	<p>今後も同様に行い、トラブル防止に努めていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様は、管理者、職員へ苦情を言える状態にはなっているが、外部の方へ伝えることは難しい。		利用者様からの苦情は聞き入れ、すみやかに対応している。現在、外部の方へ表せる機会がないため、ボランティアなど招き、接する機会を増やしていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会に来られる方には、その都度状況等説明しなかなかなか来られない方には、電話連絡している。金銭管理、異動については、毎月、本社より料金請求の際に同封している。御家族の方等面会があった際、どんな生活をしているか、日常の様子をわかりやすい様、ホールに写真を掲示したり工夫している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付相談窓口を設け、外部機関の方へも連絡ができる様、玄関入口に掲示してある。又御家族の方が、遠慮せず、言える様、玄関に用紙とポスト設置している。今まで外部からの苦情が1件あり、その際すみやかに対応し、全職員で話し合い、改善に努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設長との面談が2～3ヶ月毎にあり、その際意見を聞き入れている。又、管理者はホームにいる為、特別なものはないが、職員とできるだけ話すようにし、意見を聞き入れている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の状況にあわせ、職員の勤務時間など調整している。遅番の時間帯を12時より、11時に変更したりしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や、離職はほとんどない。		現在、在籍している職員は、介護の経験者が少ない為、サービスの質の向上のためにも職員の異動を検討している。異動の際には、利用者様のダメージが少ないよう、配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修会に参加できる様、勤務調整を行い、参加しているが、育成になっているかは、不明な所がある。</p>	<p>施設長、管理者、運営者で計画を立て職員がレベルアップできる様な、環境を作っていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>施設長、管理者は交流し、情報交換行っているが、職員は行っていない。</p>	<p>積極的に他施設との交流を行えるよう調整し取組んでいきたい。又、サービスの質の向上ができる様、他施設研修を現在検討している。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>友和会を設置し、食事会などを定期的に行い、話しができる環境づくりをしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の実績や勤務状況は把握しているが、向上心が持てているかは、不明なところがある。</p>	<p>職員一人一人が、常にレベルアップできる様な、環境を作り職員の意識改革が必要。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人様が訴えられる方の意見は聴き入れ、受けとめているが、認知力の低下により、訴えられない方の思いを組み取ることができていない気がします。</p>	<p>御家族の方などと連携し、御本人様が何を伝えたいのか、何を不安に思っているのかを把握できる様、支援していきます。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用前に、御本人様、御家族様、管理者他にして、面談を実施し、ヒアリング実施している。</p>	<p>今後も継続し、御本人様、御家族様が納得した生活の場にしていただける様、取組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	主に管理者が窓口となり、相談を受け、他のサービス事業者との連携を図り、助言を行っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	御家族様と相談をしながら、協力して頂き納得して頂ける様、日々努めている。帰宅願望がある入居者様には、面会に来て頂いたりと少しでも納得して頂ける様に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	寄り添える介護を目指しているが、業務に追われできていない事もある。		業務の工夫をし、利用者の方と寄り添い一緒に過ごせる時間を持てるよう、又支えあえる関係を築いていく。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族様との交流は、面会の時のみのため、関わりが不足している。		御家族会を設置し、情報交換など行える様な、工夫をし、一緒に支えていく関係づくりを行っていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	介護計画書のアセスメントの中で、これまでの御本人様との関係などを聞き、理解し、御本人様がよりよい関係を築いていただけるよう支援している。		現在、管理者が主になっているため、今後は全職員が実施できる様、指導していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人の方の面会などはあるが、馴染みの場所には行っていない。		家族の方とも協力をし、馴染みの人、場所に行ける様、支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知症の軽度の方は、利用者様同士が関わり合い支えあっているが、重度の方は、係わる事により、トラブルになる事がある。		職員が間に入りできるだけ良い関係づくりが出来る様、努めていく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去になった入居者様の御家族と現在は、連絡をとったりしていない。		今後、継続的に連絡がとりやすい様な工夫をしていく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				0
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント、モニタリングを定期的実施し希望、意向を把握する様に努めている。困難な場合はできるだけ思いを組み取れる様、努力している。		全職員ができる様に、今後指導を続けていく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活歴等、御家族様、御本人様より聞き取り行いアセスメントに残している。		御家族様も、昔の事がわからない事もあるため、協力して頂き、できるだけ詳しく聞き取りができる様、依頼していく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者様の一日の過ごし方や心身状態は、把握しているが、本当にそれで良いのか不安がある。		もっと外出したり、ホームでできる事はあるのではないかと感じることもある。職員間で話し合い検討していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御家族様からの意見をなかなか聞き取りにくい。又、職員からの意見を計画書に反映することができていない。		御家族の方が意見を出しやすい様な、雰囲気作りを行っていく。現在、介護計画書は計画作成担当者が作成しているため、今後は、職員全体で作成ができる様な、体制を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に評価、見直し、又、変化があった場合には、その都度見直し行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、個別記録を記入しているが、介護計画書に活かされているかどうかは不明。		毎日、個別記録は記入しているが排泄、食事、入浴といったことがほとんどで介護計画書に反映しづらい書式となっているため今後書式の見直しを検討してもいいかと思う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御本人や御家族の方より要望があっても直ぐに対応ができていない。チームケアで柔軟な対応ができる様にしていく。		御本人様の要望は、速やかに対応できる様心掛けていますが、御家族様の協力がないとできない事もあり難しい。今後柔軟な対応ができる様、チームケアにて取り組んでいく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、消防の方とは、協力体制はできているが、子供たちとは交流ができていない。		今後、地域の子供会やボランティアさんなどを招き、協力していける様にしていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向ではないが年二回程度、認定調査のため、職員と話し合いの場を設けている。		他の事業者と交流し、デイサービス等の利用ができる様、支援していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は行っていない。		今後、必要に応じて検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	地域の看護職の方と、相談しながら医療機関を利用している。		今後、利用者様のADLの低下も考えられ、ターミナルケアの実現に向けホームにも看護師を設置する必要がある。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	富良野市には、認知症の専門医がおらず、現在精神科の先生に診て頂いている状態。		精神科に通院する事での御家族様からの抵抗もあり現在、ほとんどの方が受診をしていない状態。富良野市にも専門医がいてくれれば、御家族の方も安心できると思う。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師は職員としては確保していないが、地域の看護師の方とは、相談ができる様な体制になっている。		今後、利用者様のADLの低下も考えられ、ターミナルケアの実現に向けホームにも看護師を設置する必要がある。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	施設長、管理者、御家族様、病院の関係者の方と定期的に情報交換ができる様な場を設けている。		早期退院は、できているものの、治りきらないうちに、退院になったりし再度入院すると言ったケースがあるので、今後はその様なことがない様、関係者との連絡を密にしていく。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在は、終末期の方針が決まっていない。		今後、重度化、終末期も考えられるため、方針を決定し共有できる様にしていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在は、終末期の方針が決まっていない。		今後、重度化、終末期も考えられるため、方針を決定し共有できる様にしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ケア関係者と事前にミーティングを実施し、情報交換を行いダメージをできるだけ少なくする様努めている。又、情報交換提案書を記入し渡している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録物などの個人情報、カギ付きの書棚に入れ厳重に保管し、取扱いを行っている。全職員ではないが、言葉づかいの悪い職員がいる為、今後改善が必要。</p>		<p>接遇などの研修を内部で定期的実施し、言葉づかい等改善できる様、全職員で取り組んでいく。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>わかりやすい言葉で、ゆっくりと話しをしたり、簡単な選択は行ってもらい、自己決定をして頂いている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者様の再入院、介護などで人員が少ない際、職員の都合を優先している事がある。</p>		<p>希望に添って支援していける様、スタッフ側の体制を整えていく。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>女性の方は、化粧やマニキュアといったおしゃれはできている。理容は訪問で来て頂いているため、望む店には行けていない。</p>		<p>御本人様、御家族様と相談し希望があれば行っていきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員は、その方の好みに合わせてできる限り対応している。しかし、最近は利用者の方と一緒にいる機会が少なくなっている。</p>		<p>食事の準備の際簡単な作業は、強制にならない様に、一緒に行って頂ける様支援していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病気などで制限のない方は、日常的に行える様、支援できている。また、タバコを吸わない方への配慮や、病気等で制限がある方に対するの配慮が出来ている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄間隔を把握し、トイレ誘導を行ったり、日中のみ綿パンツを使用したりと工夫している。		今後できるだけ、トイレでの排泄ができる様な支援を行っていく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日、入浴を実施し、入浴時間等も希望に合わせて支援しているが、毎日、入浴したい方が沢山いたり、時間等ずれてしまったり、入浴できない日がある時もある。		毎日入りたい方が入浴できる様な、体制を作っていく。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昔からの生活習慣を把握し、状況に応じて昼寝をしたりできる様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	夏場は外作業や、散歩といった気晴らしになる事があるが、冬場はホームにこもりがちで、気晴らしになっていない様な気がします。		冬場ホームでできる様な事を、スタッフ間で話し合い支援していく。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を手持ちしている方はいるが、使う事があまりない。買い物に行く機会がない。		今後、買い物に行く機会を持ち、利用者の方がお金を使える様に支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、洗濯物を干しに外へ行ったり、散歩へ出掛ける機会がある。又、花見ドライブへ行ったりと気分転換ができる様、支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別外出は行っていない。家族の方と一緒に掛ける機会はある。		御家族様と、入居者様が外出しやすい様な環境づくりを心掛ける。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話や手紙は、自由にできる様になっている。		自分でできない方など配慮し、スタッフと一緒に出来る様取り組む。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間であれば、いつでも面会ができる様になっている。面会時は、お茶を出したり楽しく過ごして頂ける様、工夫している。		面会時、居室で過ごされる方が多い為、イスを持って行ったりと配慮していく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないよう、ケアしているが、介護保険法の基準等は理解できていない。		全職員が理解できる様、勉強会などを行いケアを行って行く。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵は付いておらず、玄関も自由に出入りができる様になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	必ずホールには、職員が居る様、又、居室で休んでいる際にも、見回りを行ない安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	各自居室に必要な物品が置いてあり、使用できる状態にしている。包丁等、危険物以外のものは、持ち込める状態になっているが、危険防止に努めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員同士、常に声掛けを行い、常に事故が起きない様、取り組んでいる。最近、グループホームでの火災が増えてきており、職員も充分注意をしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変マニュアルを作成し、応急手当が行える様指導はしているが、定期的ではない。		今後、定期的に勉強会を開き、全職員がスムーズに対応できる様に指導していく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は実施しているが、地域の方の協力は得られない。		今後、運営推進会議などで呼びかけを行い、参加して頂ける様努めていく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その都度、家族の方へ連絡を入れ説明している。又、御家族様からの協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行い、異変などを発見できる様にしている。又、体調の変化があった場合は医療機関を受診する様にしている。自己表現のできない利用者も居る為、日々様子観察を行い、体調の変化に気付ける様にしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が見やすい様、お薬の表をファイルしている。又、薬の変更があった際には申し送りを徹底している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘しない様に乳製品を摂って頂いたり、予防に努めているが、なかなか出ないことがあり、下剤を使用する事がある。		今後も水分や食事の工夫を行い、自然排便ができる様に配慮し調整していく。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝、夕食後の口腔ケアは、実施できているが、昼食後の口腔ケアが、一部の利用者様が忘れがちになっている。		口腔ケアの重要性を全職員が理解し実践していける様、心掛けていく。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	茶碗など本人用にし、小盛り、大盛り等、個別にしている。		一部の利用者様が野菜を残しがちになっている為、食べて頂ける様工夫していく。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。又、現在は手の消毒やノロウイルス防止として、トイレの消毒を行っている。		これから、夏になるに連れ、食中毒の予防に努めさせて頂きたい。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、調理用具の消毒と職員の爪切り、食材の安全管理に努めている。冷凍の物は、作る直前に解凍する。食事の作り置きはしない等実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		昔ながらの畳の部屋などがあれば、もっとゆったり出来るのではなかとと思います。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		24時間の換気システムを導入しており、十分に換気されている。又、天気の良い日は、窓を開けるなどして換気を行い、よどみがない様配慮している。窓を開ける際には、温度差がない様に注意し、利用者様が不快な思いをしない様に、気を付けている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		ホームに手摺りを設置したりし、自分で歩行ができる様にしている。又、休んで頂ける様にイスを設置したりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>スタッフが見極めを行いきないところはさりげなく、介助したりしている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外回りに畑を作ったり、洗濯物が干せる様に活かしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない <p>自己表現のできない利用者さんに対しできていない部分がある。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ✓①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない <p>時間は少ないが毎日できる様心掛けている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>時折、スタッフの都合でペースができていない事がある。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ✓①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>適切な介助にて生き生きと過ごされている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>ドライブへ行ったり、散歩へ行ったり、できる限り行っている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ✓③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>医療面で不安がある利用者様がいる。医師より年だからと言われてしまう。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ✓③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>全員の意見を支援できない。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ✓③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない <p>なかなか面会に来られないことがあり、話す機会が持てていない。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ✓②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない <p>リハビリの先生の訪問がある。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ✓④全くいない <p>現在準備中</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ✓②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない <p>業務に、ケアにと毎日忙しく、不満に思うスタッフがいる。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ✓②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない <p>まだまだ意見等聞く必要がある。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ✓②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない <p>御家族様はなかなか意見を言ってくれない事もあり不明な点もある。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 利用者様がいつまでも安心してホームで生活ができる様、日々、職員が気を配りその人らしく生活ができる様に取り組んでいます。